

## 分水界に立つ

学校長 松本 修身

先日所用で、兵庫県中部に位置する丹波市氷上（ひかみ）町を訪れる機会があった。

そこには、「日本一低い分岐点（中央分水界）」があると聞いていたので、用事が済んだ後、「水分れ（みわかれ）公園」に立ち寄り、普段の生活の中では、まず目にすることはない光景を見てきた。

それは、何の変哲もない水路（小川）の分岐点ではあるが、よく眺めてみると標識があり、その標識の一方には「加古川を経て瀬戸内海へ」、他方には「由良川を経て日本海へ」と書いてある。つまり、この小川をたどっていくと、左に行けば加古川を經由して瀬戸内海に、右に行けば由良川を經由して日本海に注いでいるということである。したがって、この場所は、左右どちらに進むかで全く別の海に流れ着く、分かれ目であるということである。

さて、今の君たちの場合はどうであろうか・・・？

残された時間はもう限られている。自分自身の将来のことを決定するときが、いよいよ目の前に迫っている。高校 3 年生の時点で迎えるこの分岐点は、人によっては一生を左右することになるのかもしれない。

今までに様々な人に相談して助言をもらい、しっかりと目標を持って取り組んできた人もいるだろうが、多くの方は今から本気になって考えることになるのかもしれない。しっかりと悩んでほしい。安易に結論を出さないでほしい。だが、一度出した結論には、しっかりと責任をもって向き合ってほしい。

この「進路の手引き」の冊子は、本校進路指導部の先生方が中心となって、本校の実態に即して就職編、進学編に分けて、君たちに必要な情報を提供している。さらには、費用面、学習法のアドバイス、また資料編として、卒業生の進路先、合格体験記、各種様式等、何とも至れり尽くせりである。

自分が不安に思うこと、悩みごとなどは、包み隠さず保護者の方や先生方に相談し、すっきりとさせた上で決定してほしい。

この冊子をしっかりと活用して、31回生全員が納得のいく進路を手にすることを期待している。

確かに君たちは、今、様々な選択肢の中から1つを選ぶ、分水界に立っている。

※ 分水界（ぶんすいかい、drainage divide）とは、異なる水系の境界線を指す地理用語である。山岳においては稜線と分水界が一致していることが多く、分水嶺（ぶんすいれい）とも呼ばれる。中央分水界（中央分水嶺）とは、日本の太平洋側と日本海側とを分かつ分水界である。中央分水界で最も高度が低いところは、末端を別とすれば兵庫県丹波市氷上町石生（いそう）「石生新町」交差点付近の標高 95m である。この最低点の東 800m 付近に「水分れ（みわかれ）公園」があり、公園内で水路が加古川（瀬戸内海/太平洋）側と由良川（日本海）側とに分かれている。